

# 体育・スポーツ指導力養成プログラム通信

第3号 2018年度スポーツクラブ指導入門について  
2018年8月31日発行

## はじめに

2018年度のスポーツクラブ指導入門は4月25日にスタートし、8月1日の研究発表会をもって、全ての内容を終了しました。今年度の受講生は昨年度より11名多い46名であり、全ての回生、9つの専攻から集まってきました(Fig.1)。「子どもとかかわる経験をもりたい」、「体育を指導する自信がない」、「専門としてきた種目以外のスポーツ指導を経験したい」など様々な動機からスタートしましたが、全てのプログラムを終えてまとめられたレポートには、1人1人が授業を通じて成長してきた姿が記されており、教員になりたい気持ちを高めている学生も多くいました。ここでは、授業の様子から、受講生の成長の一端を紹介します。

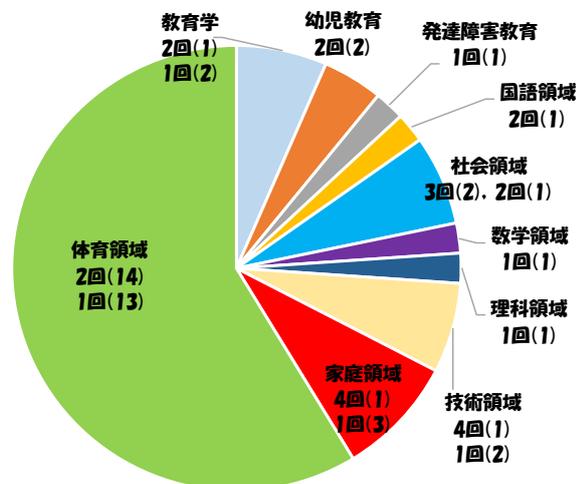


Fig. 1 2018年度受講生の内訳  
(括弧内は人数)

## 1. スポーツクラブ指導入門 前半戦 (第1~5回講義, 第6回実技, 特別プログラム1・2)

第1~5回は体育学科の教員3名、客員教授(元小学校校長)1名で、異なるテーマの講義を行い、第6回では実技を交えて子どもたちへの運動指導の導入を考えました。さらに今年度は新たな取り組みとして、京都府・京都市教育委員会の先生を招聘し、「いまの子どもたちの現状」、「教員として求められる力」に関する講義の回を設け、本授業以外の学生に対しても公開するプログラムとして実施しました。

- 第1回 4月25日(水) KYO2クラブの成り立ちと実態など (担当: 林 英彰, 体育学科)
- 第2回 4月25日(水) 発育発達期の身体的特徴と運動指導 (担当: 小松崎 敏, 体育学科)
- 第3回 5月2日(水) スポーツ指導に関する資格認定制度 (担当: 小山 宏之, 体育学科)
- 第4回 5月2日(水) 小学校体育, 運動部活動の意義 (担当: 小松崎 敏, 体育学科)
- 第5回 5月9日(水) 学校現場における運動部活動の現状と課題 (担当: 海原 洋, 客員教授)
- 第6回 5月9日(水) スポーツ指導のための運動内容の考え方 (担当: 福田 博, 北川 順一, 客員教授)
- 第7回 5月16日(水) 子どもたちの体力の実態等・教員として求められる力  
(担当: 京都市教育委員会体育健康教育室 主任指導主事 塩見 英樹)
- 第8回 5月23日(水) いま求められる教員としての力 ~学校での体育的活動を中心として~  
(担当: 京都府教育庁指導部保健体育課 指導主事 高島 拓人)

各授業では、様々な観点から体育・スポーツについて考え、レポートにまとめています。

前半の授業に関する学生の声の一部をレポートから紹介します。

授業レポートより

体育領域  
2回  
Tさん

SC入門で特に印象に残った講義は高島先生の講義です。(中略)私が印象に残った部分は(中略)、体育と他教科(座学)との違いについてであり、私は今まで、体育の授業と他教科の授業の違いは体を動かすか、動かさないか、それに伴い実技で評価するか、しないかといったことが違いであると考えていました。しかし、高島先生は体育の授業にしかできないことがあるとお話されており、(中略)その内容は体育の授業を通して学級経営ができるということでした。体育の授業では仲間との関わりが多く、関わる中で仲間を思いやる力を育むことができますが、学級経営においても自分と異なる考え方や行動を認めることは基本になります。他者を認めることができなければ、仲間を思う心は育てることはできず、お互いを攻撃し合う、ぎすぎすしたクラスになってしまいます。そうならないために、体育の授業を活用していく必要があると感じました。

## 2. スポーツクラブ指導入門 後半戦 (KY02 クラブ4 教室における指導実習)

第9回目以降では、受講生を4つの小学生スポーツ教室に配属し、各教室で見学1回、実地指導2回の計3回の実習を行いました。以下に、各教室での活動の様子を写真と学生のレポートを交えて紹介します。



バスケットボール教室 (参加学生13名、担当教員：北川順一 客員教授)

第1回 (見学) 5/30, 第2回 (実地1) 6/13, 第3回 (実地2) 6/27

授業レポートより

教育学  
1回  
Yさん

実地はとてもいい経験になりました。初めは子どもたちとどうかわって良いかわからず、ただの傍観者になってしまっていました。ですが、(中略)簡単な言葉がけをすると、子どもたちも笑顔で返してくれ、少しずつかわることができるようになりました。そして、声かけをする中で「その時に言う」ことはとても大切だと思いました。シュートが入った時、ドリブルが上手くいった時など、「できた」、「頑張った」という瞬間に気づきほめることで、「今の良かった」を自覚してもらうことができ、より自信につながると思うからです。実際に実行してみると、満面の笑みでハイタッチを返してくれる子もいました。このことはスポーツ指導だけでなく、子どもと接する時にはいつでも重要だと思うので、覚えておきたいです。そのためにも視野を広く持ち、子どもの言動を注意深く見る必要があると感じました。

授業レポートより

体育領域  
2回  
Mさん

実習を通して、どのように声かけをしていけばよいか、学年によってどのような違いがあるかなど、多くのことを学びました。初めはあまり声をかけることができなかつたですが、ハイタッチや応援など少しのことを積み上げていくことで子どもと打ち解けていくことができました。指導の際は、(中略)注意を指導者に向けさせるために様々な工夫をしていました。例えば、声を半トーン上げる、他の学年の練習風景を見て気が散らないように、その方向に背を向けさせて話しをするなど、自分では思いつかない工夫がたくさんありました。また、子どもが楽しく学べるように、レーズ形式をとったり、ボールの大きさを変えたり、ゴールを下げたりするなど、学年に合わせた練習方法も行っていました。(中略)私が教員になった際には、教員主体でなく、生徒主体の授業を行い、授業が終わった後にはどんな児童・生徒でも「楽しかった」、「面白かった」と言ってくれる授業にしていきたいです。



陸上教室 (参加学生7名、担当教員：福田晴也 客員教授)

第1回 (見学) 5/27, 第2回 (実地1) 6/10, 第3回 (実地2) 6/17

授業レポートより

体育領域  
1回  
Sさん

KY02 クラブに参加した中で、小学生の児童とのコミュニケーションの方法を学びました。自分が担当したチームは小学3・4年生だったので、この学年特有の特徴かもしれませんが、「勝ち負けに対するこだわりが強い」ということを本当に強く感じました。何をやる時間も、隣の友だちと競い合っただけだったように思います。3回目の参加では、この特徴を利用して整列や集合を早くさせることができました。このように一見難しいように思える児童の特徴でも、工夫次第では指導をする上で利用できることを学びました。

講義を含め、全ての授業を通して本当に多くのことを学ぶことが出来ました。実践的に陸上教室に参加したのは3回だけでしたが、初めて「先生」と呼ばれて、本当に感動しました。KY02 クラブでの体験を通して「教員になりたい」という思いがさらに強くなったように思います。これからもっと沢山の経験を積んでいきたいです。

KY02 クラブに参加し、多くのことを学ぶことができました。私は1・2年生の担当でした。1・2年生の子どもたちは目に入ったもの、耳にしたものにすぐに反応してしゃべりだしてしまうので、まずは意識を一点に集めさせ静かにさせることから始めなければいけないことを教わりました。(中略) また、悪さをする子を叱るとき、よっぽど悪さをした子に対しては、離れた場所で叱り、こうすることで子どもの目には先生しかなくなり、「自分が悪いことしたこと」を意識づけできること、叱る際にはしゃがんで子どもと視線をあわせること、子どもにわかる言葉で、叱る理由がしっかり伝わるように叱ってあげることなどが大切だと学びました。

今回は決められている活動の補助でしたが、先生になったらどんな活動を、どのようにさせるかと授業の構成を行う必要があります。そのため、今回行った活動をもう一度振り返り、自分が先生になった時のことを想定して、今のうちから準備しておこうと決めました。

最後に、この授業を受けたことによって、体育の先生になりたいという気持ちがより強くなりました。理由はすでに述べましたが、何よりもスポーツを教えることに難しさをいくつも感じたからです。今後、インターンシップを行ったりすることによって、よりいっそうの課題に直面すると思いますが、失敗を恐れずに自分の将来のために多くの経験をもっともっと積んでいこうと決めました。



### 体操教室 (参加学生13名、担当教員：海原洋 客員教授)

第1回 (見学) 7/4、第2回 (実地1) 7/11、第3回 (実地2) 7/18

この授業を受講しようと思った理由は、実際に子どもたちとかかわる機会を増やしたいと思ったからです。また、(中略) 私は小学生とスポーツを通じて関わり、子どもたちにスポーツの楽しさを伝えていきたいと思っています。このような動機から始まった授業でしたが、スポーツを教えるということだけでなく、教師になるものとして必要なことをたくさん学ぶことができました。(中略)

私は体操教室の1・2年生を見ました。指導を行う際には、一人ひとりの能力を理解し、その子には何が足りないのか、どのように補助をすれば良いのかなど、沢山考えなければならぬことがありました。(中略) ただ補助をするだけでなく、できるようになるにはどのような補助が大切なのか、どんな器具を使えば良いのか、一人ひとりに合わせて考えていくことが大切であると感じました。(中略) 器具の工夫がたくさんあり、固定観念から少し離れてみることで、年齢や能力にあった指導がこんなにもできるのだと驚きました。(中略)

この授業を通して、教師という職業の魅力を改めて感じることができました。今までできなかったことができた時の子どもたちの笑顔、あともう少しでできそう! という悔しそうな顔が忘れられません。子どもたちのその時の気持ちを一緒に感じることででき凄く嬉しかったです。これからも、沢山の子どもたちとかかわって、色々なことを感じ、成長していきたいと思っています。



私がこの授業で一番うれしかったことは、今まで逆上がりができなかった子が、できるようになったことでした。その時の子どもの笑顔は忘れることができません。こういう嬉しいことが、教師や指導者という立場になった時に味わえるのだなと感じました。(中略)また、私は陸上をしています。得意なスポーツで子どもたちと関わる時と、指導経験のない体操で関わる時では、不安要素が多く、どう子どもたちに接していけばいいかわかりませんでした。しかし、授業を通して、子どもたちに近づけば子どもたちから話しかけてくれたり、少しでも声を掛けるとアクションを返してくれて、子どもたちのおかげで積極的に関わろうという気持ちになりました。このように、この授業はスポーツ指導の第一歩が踏める機会だと思います。この経験は、教育実習や教員になった時の教育現場で活かせると感じています。

授業レポートより

体育領域  
1回  
Kさん



サッカー教室 (参加学生13名、担当教員：福田博 客員教授)  
第1回 (見学) 6/7, 第2回 (実地1) 6/14, 第3回 (実地2) 6/21

授業レポートより

体育領域  
2回  
Sさん

授業を受講し、非常に貴重な経験をしました。私は子どもとの関わりが大学を通しての活動では初めてでした。以前、専門である野球を通じて中学生の指導に携わったことはありますが、今回はサッカーでさらに小学生であったため、何もわからない状態からスタートしました。(中略)実地2回目目で実際に子どもたちと一緒にプレーしながら指導にあたり、アドバイスや声かけを繰り返す中で、子どもたちと正面から向き合うことの大切さに気付きました。これは目線や体の向きなどの物理的なことに加え、気持ちをしっかりとぶつける心や精神的な面を含んでいます。全力で取り組む子どもたちにしっかりと向き合い、的確なアドバイスやほめ言葉、注意喚起を与えることでこちらの指示を真剣に聞き入れてくれました。この時、「子どもは大人を見ている」という意味を本当の意味で分かったように思います。子どもたちは私たちの態度や表情を見て、こちらが全力でぶつくとそれにこたえようと練習に励んでくれました。このことに非常に大きな喜びを感じ、子どもたちとのかわりの中で得られる教員の達成感の一つなのではないかと感じました。この貴重な経験を忘れず、今後の学びの励みにしていきたいと思っています。

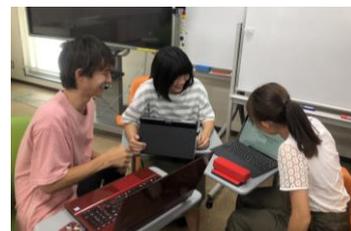


3. 「学びの振り返り」から「学びの共有」 ～討論会から研究発表会～

学生は8グループに分かれ、7月25日(水)に研究発表会におけたグループ討論会(右写真)を行い、8月1日(水)に「見学・実地指導での学び」をテーマとした研究発表会(下写真)を行いました。各グループの10分間の発表では、「子どもに応じた指導方法の工夫」、「運動指導場面での安全配慮」に注目した発表が多く、活発な質疑応答も行いながら、運動種目による違いや共通点など、充実した学びの共有が行われました。最後には、昨年度インターンシップI・IIを終えた夏井さん(発達障害教育3回)からインターンシップによる自身の成長について話をしてもらい、主免実習前半部分で非常に役だったという体験談もありました。

今年度も多くの学生がインターンシップに進みます。1年間のインターンシップを経て、成長した姿で先輩たちの前に立ってくれることを期待しています。

研究討論会 @ 未来教室



教職キャリア高度化センター  
スポーツ指導者養成部門  
体育・スポーツ指導力養成プログラム  
(担当) 小山 宏之

